

2 月 の 御 社 頭

# 沙沙那美

滋賀県護国神社  
社 報

発 行 所

滋賀県護国神社社務所  
〒522 彦根市尾末町1番59号  
電話0749(22)0822  
印刷 田中印刷所

## ご 挨拶

宮 司 山 本 浅 次 郎

本年は二月立春過ぎてから連日の雪降り、しかも豪雪で、除雪しても除雪してもおっつかず、近年稀なる大雪である。少々の雪であったならばほんによい雪景色と雪見酒に興ずる場面もあるが、いかに雪は豊年のみつきとは言うものの、聊かたじたじの状態である。

御遺族始め皆様方の御家庭に於かれましても多少の御被害もおありの事と拝察致しまして、謹んで御見舞い申し上げます。当神社も昭和五十六年の豪雪に社務所の御屋根が相当傷みましたが、本年は未だ雪がとけきれず、被害の程度も十分に判明致しかねる状態であります。

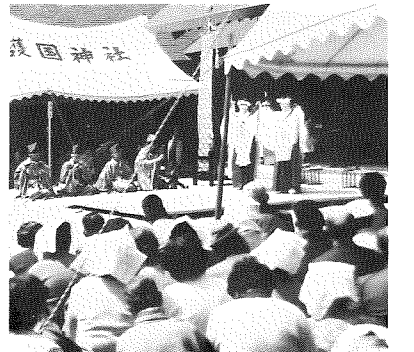
本年は終戦後数えて四十年目に当たります。人生四十は不惑の年、惑わず、と言いますが、我が国ももういいかげんに、惑わず靖国神社国家護持の問題といい公式参拝の事といい決着をつけてもらいたいと思えます。いつまでもいつまでも優柔不断の態度は誠に不甲斐なく情けなく感ずる次第であります。御英霊の神々様に対し申し訳なく慚愧の極みであります。一日も早く神々様の御心を安んじ奉ります様、今後一層の神勤に励み、御遺族皆様方も御安堵いただきます様、努力を重ねたいと念じます。

沙沙那美第五号の発刊に当り、一言御挨拶申し上げます。

# 例大祭 斎行

昨年の春秋例大祭は、祭儀万端滞り無く盛大裡に終了いたしましたことをご報告申し上げます。

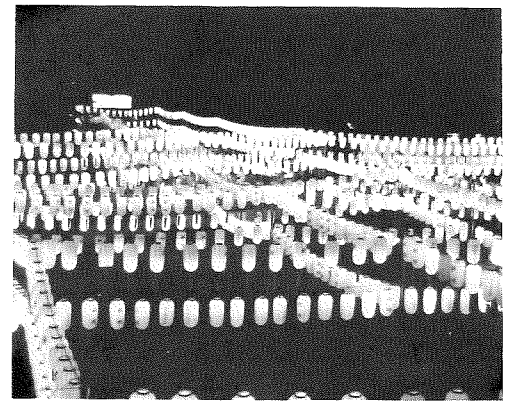
大阪箕面忠魂碑訴訟の影響で、県からは公式の参拝はありませんでしたが「英霊に感謝の誠を捧げる気持ちには変わりはありません」というご説明は頂戴しており、世相とはいえ、何の遠慮も無く皆様方をお参りすることが出来る日の早期到来を心より願う次第です。



浦安の舞に見入る遺族さん

# 献燈みたま祭

(八月十三日、十五日)



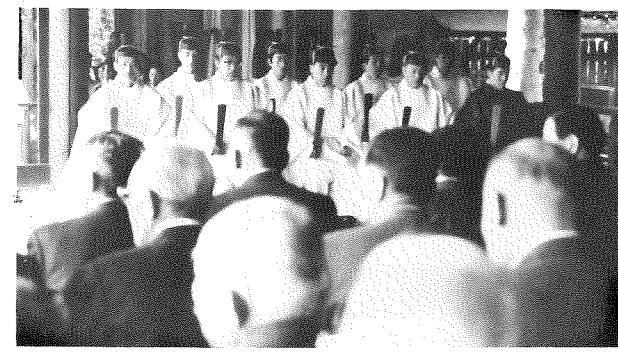
り飯の白米がほとんどなかった」とか「味噌が手に入らない」「大根のたくあんはまだ贅沢な方だ」などと、当時の話しに花が咲き、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

当日は台風の影響で、午後からの行事を中止し、急ぎ提燈を撤収しなければならなくなり、大変な幕切れでしたが、一つ一つの経験を経て、この新しいお祭りを充実したものにしていきたいと存じます。今後共、皆様方のご協力を宜敷お願い申し上げます。

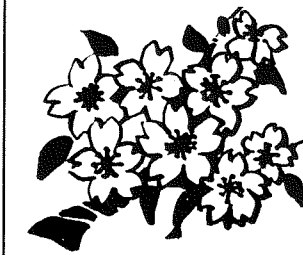
八月十五日正午  
一同黙禱

## 春の合祀新祭神

藤井 良蔵 之命 (本籍 甲賀郡)  
若田 亀治郎之命 ( 八日市市)  
関野 権蔵 之命 ( 愛知郡)



奉仕神職



第七回目を迎えた昨年のみたま祭に、青壮年部企画の盆踊りが加わるなど、回を重ねるにつれ、賑わっていくことは喜ばしい限りです。

十五日昼の全国戦没者追悼慰霊祭終了後、神社では戦時下の当時をしのいで、握り飯とたくあん味噌汁という粗飯での直会の用意をし、ご参列の方々に召し上がっていただきました。当初水とんを考えたが、準備する台所方の都合で味噌汁に変更されました。戦後の時間の経過を思わせました。それでも、皆さんとの間では「握

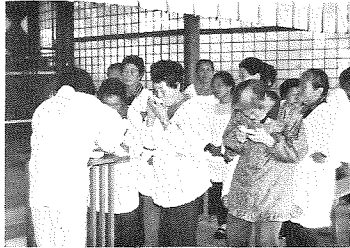


直会

## 境内清掃奉仕年間記録抄

(昭和五十八年三月～昭和五十九年二月)

- 五十八年
  - 三月二十六日 彦根市尾末町尾寿衛老人クラブ 十四名
  - 二十七日 彦根銃剣道連盟 七名
  - 彦根市銃剣道スポーツ少年団 十名
  - 三十日 八日市市遺族会婦人部 十五名
- 四月三日 彦根市遺族会春季大祭準備奉仕
- 五日 彦根市遺族会春季大祭 後片付け奉仕
- 五月二十二日 彦根市高宮町遺族会婦人部十二名
- 六月
  - 九日 彦根市尾末町老人クラブ 十名
  - 十五日 犬上郡多賀町遺族会婦人部 二十四名
  - 三十日 愛知郡愛東町遺族会婦人部 二十三名
- 七月
  - 二日 守山市遺族会婦人部 四十一名
  - 二十五日 愛知郡愛知川町遺族会婦人部 二十九名
  - 八月十三日 県遺族会青壮年部 みたま祭献燈準備
  - 十五日 県遺族会青壮年部 みたま祭後片付け
  - 十月一日 八日市市遺族会婦人部 十三名
  - 草津市遺族会婦人部 十名
  - 十一月十六日 愛知郡湖東町遺族会婦人部十九名
  - 二十八日 彦根市尾末町老人クラブ十二名
- 八月十三日 彦根市遺族会秋季大祭準備
- 五日 彦根市遺族会秋季大祭後片付け
- 二十八日 愛知郡秦荘町遺族会婦人部 二十一名
- 三十日 蒲生郡日野町 南比都佐青壮年部 九名
- 十一月十六日 愛知郡湖東町遺族会婦人部十九名
- 二十八日 彦根市尾末町老人クラブ十二名
- 三月 虎姫町遺族会 守山市開発遺族会
- 五月 坂田郡婦人部 彦根市青壮年部
- 六月 伊吹町遺族会 愛知郡遺族会
- 八月 愛東町遺族会 中主町婦人部 中主町青壮年部 近江町遺族会 蒲生郡遺族会 守山市青壮年部 草津市婦人部 近江八幡市青壮年部 大津市遺族会 五個荘町遺族会 草津市遺族会 県遺族会青壮年部
- 十一月 彦根市稲枝遺族会、能登川町遺族会、五個荘町遺族会、水口町水口遺族会、甲西町遺族会
- 十二月 湖北町遺族会、甲賀町遺族会



参拝後御神酒をいただく 婦人部のみなさん



彦根市銃剣道のみなさん



伊吹町遺族会



甲賀町遺族会

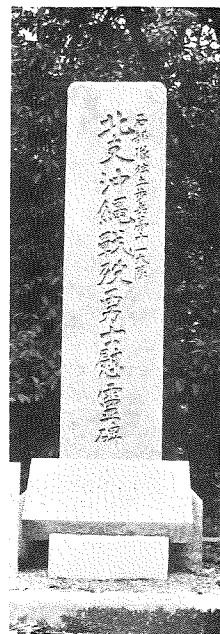
## 遺族会のご参拝

昨年三月から本年二月までの一年間を通じて、春秋の例大祭、一月の県遺族会新年祈願祭、清掃奉仕の婦人部の参拝以外の遺族会としてのご参拝状況は次のようになっています。

研修旅行や慰安旅行の行程の中に、護国神社参拝を組み入れ、出来るだけお参りされることを希望いたします。

# 散策 (五)

## 「昔陽会」北支沖繩戦歿勇士慰霊碑



「昔陽会」とは、北支及び沖繩に於て苦樂と生死を共にした元石部隊独立歩兵第十一大隊に在籍していた戦友達が終戦後相集り、当時を偲び語り合い、お互いに助け合い、そして今は還らぬ幾多の亡き戦友の冥福を祈るために、昭和三十四年一月十五日に結成した戦友会で、部隊が長期駐屯していた北支時代の地名を会の名称として「昔陽会」としたものであります。

独立歩兵第十一大隊は昭和十三年二月十一日北支天津で新設された独立混成才四旅団の隷下部隊で編成、完結と共に天津より南下し石家莊周辺等各地の作戦に参加しつ、昭和十三年十二月二十日北支山西省昔陽県に駐屯することになり、その地域周辺の警備と治安の維持に任じつ、五台山作戦、晋中作戦、榆社武郷進駐作戦、百团対戦（石太線反攻作戦）、中原大会戦、南

河南、山西の三省内太行山系の特有の峻嶒な山岳地帯の作戦、討伐戦の数々に参加し、輝やかしい戦果と戦績を収めて来た部隊であります。しかしこの間の北支戦線に於て幾多の戦友の犠牲を忘れることは出来ませんが、部隊は昭和十八年六月独立旅団から師団編成に改編され、才六十二師団独立歩兵第十一大隊と改称され、河南作戦で南下し洛陽攻略後中支青島に集結、沖繩に転進の命令を受け思い出多い北支昔陽を去ることになり、この大陸に永遠に眠る戦友の御霊に心を残しつ、昭和十九年九月青島港を出帆し沖繩本島に上陸、中頭郡西原村に部隊本部を設置、本土防衛の才一線として陣地構築に任じていたが、昭和二十年四月一日物量

を以って上陸進攻する米軍と交戦、西方と共に見事に慰霊祭を行なつて来ており、これからも毎年十月には実行することになっております。

で最終の戦果をあげここに玉碎となつたのであります。

昔陽会も本年で二十六周年となりますが、結成以来北支沖繩戦線で戦歿した戦友の霊に対し今日生を得ている戦友として、毎月一日に戦友相集り慰霊大祭を行ない心から感謝の誠を捧げて来ておりますが、部隊編成以来玉碎迄の七年余の間に戦歿した戦友の榮譽を永遠に祭祀し、且つ生存戦友のお互いの心の置きどころとするため、昔陽会として昭和四十四年十月に沖繩戦跡を巡拝し、持ち帰った沖繩の霊石を埋めて昭和四十五年一月に京都霊山護国神社、同年三月に滋賀県護国神社の各境内に「石部隊北支沖繩戦歿勇士慰霊之碑」を建立し、毎年の春秋の慰霊祭、夏のみたま祭には神饌を献じ有志が参拝してあります。又沖繩が本土復帰となった機に沖繩県中頭郡西原町に「石部隊関係者戦歿者慰霊供養塔」を昭和五十一年十月に建立し、爾來、毎年

独立歩兵第十一大隊は編成当初は北海道、関東、東北、兵庫、愛知という他府県出身者でありましたが、昭和十五年一月から滋賀、京都（一部福井）の出身者で編成となつたいわゆる郷土出身者の部隊であります。しかし毎年行なう諸行事には編成当初の他府県出身生存者も遠地から集り盛大に運営されて来ております。これら戦友又御遺族の方々の御協力により昔陽会としてはお互い生ある限り亡き戦友の慰霊顕彰の灯をともし続けていく所存であります。

元石部隊独立歩兵第十一大隊  
戦友会 昔陽会

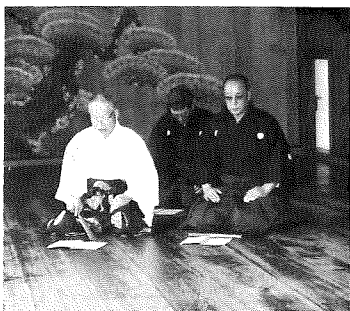
滋賀県地区世話人  
川島清次  
大津市坂本本町九九二二二



碑の前での川島氏

十月に「昔陽会沖繩慰霊戦跡巡拝団」を編成し、遺族をまじえ戦歿者の戦歿場所を巡拝し塔前で地元西原町の方々と共に慰霊祭を行なつて来ており、これからも毎年十月には実行することになっております。

## お正月

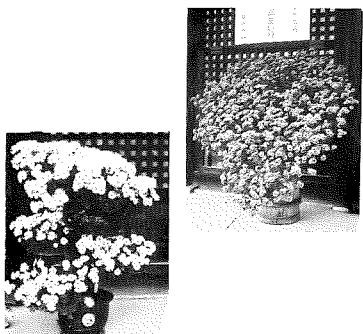


能舞台での謡い初め

一日より五日まで新年初詣特別参拝受付期間として、一般の参拝の方へは御神酒を、特別参拝の方へは新嘗祭白酒と力餅をおあげしています。当神社は、いわゆるマスコミうけするようなご利益信仰とは異なる御社柄ですが、平穏で和やかな新年を迎えることのできる今日やはり祖国のため尊い礎となられた、当神社の御祭神のことを忘れてはなりません。皆様方のご参拝をお待ち申し上げます。

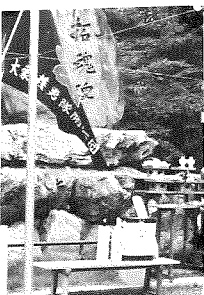


## 菊 献 花



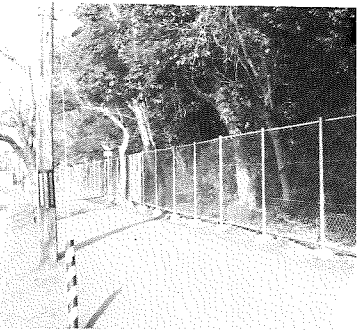
昨年十一月六日より二十日間、彦根市遺族会青壮年部長森茂氏は、丹精込めた紅白二鉢の菊を献花されました。

## 満蒙開拓物故者慰霊祭



毎年八月の第一日曜日を祭典日と定め、多数の方々ご参集になり、境内の慰霊碑前にて物故者慰霊祭をご奉仕申し上げます。  
昨年は八月七日午前十時三十分、拓魂奉賛会代表辻清氏始め、ご関係の皆様方お集りになり、宮司が祝詞を奏上し、謹んで慰霊祭をお仕え申し上げます。

## フェンス新設



昨年七月、御本殿裏側の道路沿いに、アルミフェンスの敷設工事を行ないました。  
従来の鉄条網の柵が壊れ、地元町内会からも、往來に際して危険であるとの指摘もあり、施工したものです。  
本来ですと、周囲の景観からも、柵など無い方が良いのですが、これも時代の流れでしょうか。御本殿裏でのいたずらやゴミの不法投棄などの不心得者がいるために、余計なことをしなければならず、出費もかさむ次第です。

## 御 篤 志



奉納品 金村氏の御簾

彦根市銃剣道連盟 帯帯三十本奉納  
坂田郡米原町 榎村婦人會  
金毛拾萬田也(拜殿用御簾調製奉納)  
彦根市京町 伊豆 至殿  
きり絵奉納(正面大鳥居より表参道及彦根城を画材とする)



幕奉納の彦根市遺族会

彦根市城町 中村きしえ殿  
みたま祭の額入り写真奉納  
神崎郡能登川町 川原崎 昇殿  
横額「護国英霊」奉納  
彦根市遺族会  
斎館紫社紋入り横幕奉納  
守山市木浜町 芝原 稔殿  
金毛拾萬田也(護持基金として)奉納  
彦根市佐和町  
文教スタヂオ 社長 一圓泰三殿  
新春の天皇家ご一家御写真奉納  
以上の皆様方のお志に対し、厚く御礼申し上げます。

### 忠魂碑訴訟は

### 良識で判断を!

一昨年、昨年の大阪箕面市忠魂碑訴訟判決は、全く民情を理解しない不可解なものでしたが、この件の大阪地裁の裁判長は、いずれも古崎慶長という判事ですが、この人はクリスチャンであり、と申します。これはどうも納得がいきません。何故なら、この裁判の中で、仮りに宗教を判断する部分があるとしても、それを裁く判事が特定の宗教を信奉する人間であつて良いものでしょうか。また、たとえ本人が特定の宗教を信心していても、個人の信仰を離れた立場で対処しなければ、本当の意味での良識ある判断は下せないはず

です。クリスチャンの裁判官だからあつたという判決になったとは思いたくありませんが、しかし、あの判決の解釈を見る限り、そう思われても仕方ないでしょう(あの判決がいかにてたためめ偏向であるかは、英霊にこたえる会の会報等に詳しく報じられています。)

では、何故クリスチャンであつたら我々一般の民情を理解出来ないのでしょうか、それは、クリスト教が一神教であり、この一神教の立場では、多神教である日本人の信仰を判断することは出来ないのです。クリスト教は西洋で発展し、西洋の政治や文化と密接に

係わつてきて、西洋の歴史はクリスト教の歴史でもあり、西洋人の価値基準には必ずクリスト教の概念があるので、この西洋人にとって、神社にも寺院にも参詣する日本人に共通する意識・即ち信仰心は理解出来ないようです。このことは、クリスト教の立場では我々の信仰を真に理解することが出来なくて「宗教的に無節操」(古崎裁判長)となる訳です。クリスト教からみれば当然そうなります。

唯一絶対としての神の存在があつてこの世のことはすべてこの神のご意志であり、創造したもの、この神こそ絶対真理とされます。自然も人間も神の創つたものとして認識されます。しかし我々はどうでしょう。天神地祇の神々は勿論のこと、自分たちの祖先から動物植物を始め自然界のあらゆるものの中にも神を見出しています。神・自然人間が、クリスト教では別の存在とされるのに、我々はそうではなく、神も自然も人間も一体として考えています。このような日本人と西洋人の神に対する考え方から導き出された判断が自ずと異なることは明白です。お互いの民族の成立過程、環境の違いと共に、培ってきた信仰の違いは如何ともし難いものがあります。ところで、今は、これらの違いの優劣を問うているのではなく、我々クリスト教が宗教として極めて優れていることは周知のこと

で、この点誤解なきよう。要は、こゝに決定的に異なる価値基準による、他方のものの考え方を判断しては危険であるということです。日本人の神仏への思いを、西洋流のもの考へ方では律してはいけません。我々日本人には日本人の歴史があり、伝統があり、文化があるのです。

現在、各地で頻発する政教関係の係争は、一種の流行のようになってしまつて、我々の神仏への思いなど無視するかのように、地域の年中行事である地蔵盆や、駅舎、警察道場での神棚かやり玉にあけています。正にギスギスしたトゲトゲしい世の中になつてしまつて、己れの主義主張を貫くためには気に入らないことは法廷にまで持ち込んででも決着させようとする、自由と平等の名のもとに、民主主義の中でも、慎しさが消えて、実に最もいやらしい面を露呈する結果となつていっているように見うけられます。

日本人の良識を信じ、いずれはこういつた非常識な争いも法律上の決着がつくと思ひますが、それ以前の問題として、こういつたことを喜んでとり上げる人々が確かに現在の日本に存在して、そのような勢力が、今のところ大手を振つて罷り通つていことに、憤りを感じると同時に恐ろしい思いがし

ます。仮りに、そういった勢力の動きを無批判に受け入れてしまつた時、その時は、我々は日本人でなくなる時であり、日本という国は滅んでしまふということを決して忘れてはならないでしょう。

編集後記  
○今冬の豪雪で、神社も、屋根や境内の植木に少なからず損害を蒙っている。また、お金の心配をしなければならず、頭の痛いことである。隣の彦根城いろは松も二月の豪雪で倒れてしまった。どうなることかと思つていたら、三月九日、無事に起き上がったようだ。しかし、老木だけに果して元通り根付く心配されるが……。彦根市も余計な出費で頭の痛いことだろう。

○箕面忠魂碑判決により、各地で混乱が生じることを懸念する余り、おこがましくも昨年の社報の巻頭に拙文を載せ、他方、一般新聞にも投稿をした。しかし、誤つた火の勢いしますます大きくなる様相を呈している。英霊を祀る御社をお守りする者として、黙つてい

る訳にはいかず、今年も大切な社報の紙面を駄文で汚すことをお願いしたい。(称宜記)

○今冬の豪雪で、神社も、屋根や境内の植木に少なからず損害を蒙っている。また、お金の心配をしなければならず、頭の痛いことである。隣の彦根城いろは松も二月の豪雪で倒れてしまった。どうなることかと思つていたら、三月九日、無事に起き上がったようだ。しかし、老木だけに果して元通り根付く心配されるが……。彦根市も余計な出費で頭の痛いことだろう。

